

第Ⅱ章 社会教育編

テーマ「住みよい地域社会」 ～PTA・家庭教育との連携(親の視点から)～

〔事例38:「人権感覚を培う参加体験型グループ研修」に関連した取組事例〕

1 目 的

くらしの中にある様々な人権問題を、相談者や助言者の立場で考えることにより、人権問題解決に向けた実践的な技術（スキル）を身に付けさせる。

2 対 象 成人（保護者）

3 所要時間 60分～

4 準 備 物 悩みカード、封筒（P.28の悩みカードを四つに切り取って入れる）

5 進め方

(1) グループ討議（40分）

- ア 4人編成のグループをつくる。
- イ グループごとに「悩みカード」の入った封筒を配る。
- ウ グループごとに司会者を決め、次の順で学習を進める。
 - (ア) 封筒の中のカードをそれぞれ1枚ずつ引く。
 - (イ) 相談者の順番を決める。
 - (ウ) 引いたカードを自分の悩みとしてグループの人に相談する。（相談時間は一人当たり10分間）
 - (エ) 相談を受けた者は、それぞれ解決方法をアドバイスする。
 - (オ) 相談者は、アドバイスされた解決方法をカードのメモ欄に記入する。

(2) 全体討議（20分）

- ア 各グループより、アドバイスの内容を紹介し合い、解決方法について話し合う。
- イ 出された意見をまとめる。

6 留意点

- (1) 時間に余裕がある場合には、グループ討議の後、同じカードを引いた者どうしでグループをつくって話し合うのもよい。

同じ悩みをもった人どうしのグループができました。先ほどのグループでアドバイスしてもらったことを紹介し合い、「自分ができそうなことは何か」をキーワードに、自分なりの解決方法を決め、考え方を整理しましょう。

- (2) 悩みカードの内容は、事前にアンケート調査を実施する等、参加者の実態に応じて作成してもよい。また、人数の関係で、4人グループができない場合は、白紙カードを準備し、相談内容を参加者に考えてもらうのもよい。

【他の相談内容例】

- 6年生の息子は、アトピー性皮膚炎がひどく、顔を含め全身に症状が出ています。低学年の頃はあまり気にしていなかったのですが、高学年になり友達のことを気にして学校へ行くのを渋っています。また、学校でいじめにあうのではないかと心配です。どのように対応をすればいいのでしょうか。
- 5歳の娘ですが、いつも食事を残します。好き嫌が多く、野菜類はほとんど食べません。小学生になったら給食も始まりますので、不登校になるのではと心配しています。どのようにすればいいのでしょうか。

- (3) 悩みカードD（P.28のD【悩み】）を使用した場合は、児童虐待についての解説を行う。学校の教員等、早期発見に努めなければならない立場の者の研修においては、「児童虐待の防止等に関する法律」〔第5条・第6条〕の解説を含める。

参 考

「児童虐待の防止等に関する法律」

〔第5条〕 児童虐待の早期発見等

「学校、児童福祉施設、病院その他児童の福祉に業務上関係のある団体及び学校の教職員、児童福祉施設の職員、医師、保健師、弁護士その他児童の福祉に職務上関係のある者は、児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない。」

〔第6条〕 児童虐待に係る通告

「児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所又は児童委員を介して市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所に通告しなければならない。」

児童虐待については、愛媛県教育委員会人権教育課発行の「人権・同和教育だより第88号 子どもたちの笑顔のために『児童虐待から子どもを守ろう』」や、文部科学省研修教材「児童虐待防止と学校」を参考にしてください。

〔人権教育課のホームページに、人権・同和教育だより第88号（改）を掲載しています〕

URL <http://ehime-c.esnet.ed.jp/jinken/88/top88.htm>

7 資料（悩みカード）

A【悩み】 中学生の娘が、以前親しかった友達からいじめられていると他のお母さんから聞きました。 何よりも表情が暗く、こちらがその友達の名前を言って話題を振っても、話をそらせてそのことに触れないようにします。どのようにしたらいいのか悩んでいます。	A〈解決方法〉
B【悩み】 7歳の息子には発達障害があります。 一緒に近くの公園に出かけると、あたりかまわず大声を上げて走り回ります。 できるだけ息子を家の外へ連れていきたいと思うのですが、他人の目が気になってしまいます。どうしたらいいのか悩んでいます。	B〈解決方法〉
C【悩み】 仕事が忙しく、毎日の生活に追われています。そのため、落ち着いて子育てができず、子どもに対しては、感情的に叱ってばかりの毎日です。あまり叱ってはいけないと思ってはいるのですが・・・。 そのうえ、厳しく叱ると子どもが反抗して暴れることもあり、どのようにすればいいのか悩んでいます。	C〈解決方法〉
D【悩み】 隣のAさん宅の5歳になる男の子は、いつも身体が不潔で、靴や衣服からは異臭もしています。母親にそれとなく聞いてみると、「本人がそれでいいと言うので、放っといてください」と答えます。ひどくやせており、食事も満足に与えられていないように思います。そのままにしておいていいのでしょうか。	D〈解決方法〉

テーマ「住みよい地域社会」 ～私たちの町を見直そう(見るという視点から)～

〔事例38:「人権感覚を培う参加体験型グループ研修」に関連した取組事例〕

1 目 的

- 信号機の色を思い起こすことを通して、普段、自分が回りの様子を漠然としか見ていないことに気付かせる。
- 看板の色使い等を考えることにより、見え方には人によって違いがあることを再確認し、看板や広報誌、プレゼンテーション等を作成するときに、色やデザインに配慮する必要があることに気付かせる。
- トイレの表示を考えることにより、相手を傷つけたり責めたりしない表現や相手を思いやる表現があることを確認し、その表現を用いることが互いを尊重し合い、思いを伝えるためには重要であることに気付かせる。

2 対 象 小学生以上

3 所要時間 40分～

4 準 物 ワークシート、色鉛筆など 参考資料「色の見え方の違い」

5 進め方

〔ワークシート（P.31）を使って学習する〕

(1) 信号機の色は？（5分）

- ア 信号機は、どこが何色になっているか、記入させる。
- イ 答え合わせをし、「信号機の色は？」と尋ねられたときに、自信をもって答えられなかったことから、普段の生活の中で、回りの様子を漠然としか見ていないことを確認する。

(2) 看板を作しましょう。（20分～）

- ア 危険箇所注意を促すための看板を作る。どのような色にするか、色鉛筆などでAに色を付ける。
- イ 色付けしたのを見て、意見交換をする。
- ウ 参考資料を使って色覚に障害がある人の色の見え方の違いを紹介し、色付けした看板が全ての人に分かりやすいものかどうかを確認する。
- エ 色合いだけでなく、文字のデザインや大きさなど、どのような工夫をすれば分かりやすくなるかを考えさせ、Bに記入させる。
- オ 日本人では、男性の約5%、女性の約0.2%に先天的に色覚に障害のある人がいる（日本眼科学会による）ことを知らせるとともに、色使いやデザインによっては、内

容が伝わりにくいものになることを確認する。

(3) 表示を作りましょう。(15分)

ア トイレをきれいに使ってもらうために、自分であれば、どう書くかを記入させる。

イ 作成した表示を見て、意見交換をする。

ウ 同じ意味をもったメッセージでも、表現の仕方により、相手に与える印象が違うことを確認し、相手を傷つけたり責めたりしない表現や相手を思いやる表現を用いることが、相手を尊重しながら思いを伝えることになることを確認する。

(4) 発 展〔フィールドワーク、調査をしよう〕

学習したことをもとに、町内や学校の看板、表示等を調べるフィールドワークや広報誌、チラシ、ホームページ等を調査する活動を行い、実態を把握する。その後、実際に改善を図っていく。

6 留 意 点

- 「看板を作りましょう」のAの看板について話し合う際、あらかじめ色覚に障害のある人に見えにくい配色例を用意しておく。
- Bの看板では、文字のデザインや色だけでなく、看板の形や大きさなどについて考えさせてもよい。
- トイレの表示を考えさせるときには、表示文だけでなく、文字のデザインや色などを考えさせてもよい。きっかけづくりとして、身近なところの表示を紹介するとよい。
- この事例は、フィールドワーク、調査を行うとより学習効果があがる。今回の学習だけで完結するのではなく、学習後フィールドワークや調査を行い、その結果をもとに話し合うところまで発展的に進めていくとよい。そして、できれば地域にある看板、表示、広報誌、ホームページ等の改善をしていく。

参考資料

「色の見え方の違い」

- ◆ 色の見え方の違いを紹介しているホームページが多数ありますので、次の検索ワードなどでウェブ検索し、参考となる資料を選択してください。
- ◆ ウェブ上の資料を使って学習する際には、使用許可をとってください。

検索ワード（例）

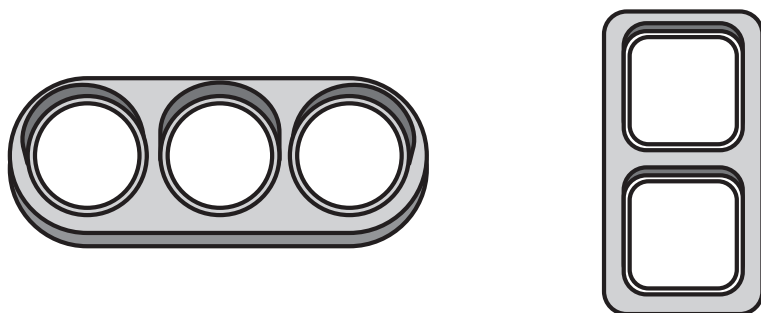
「色覚 見え方」 「色覚障害 見え方」 「色覚障害 見やすい色」
「色覚障害 カラー」 「色覚検査法」 「色覚特性」
「色覚のユニバーサルデザイン」 「カラーユニバーサルデザイン」
「色覚バリアフリー」 など

7 ワークシート

私たちの町を見直そう

(1) 信号機の色は？

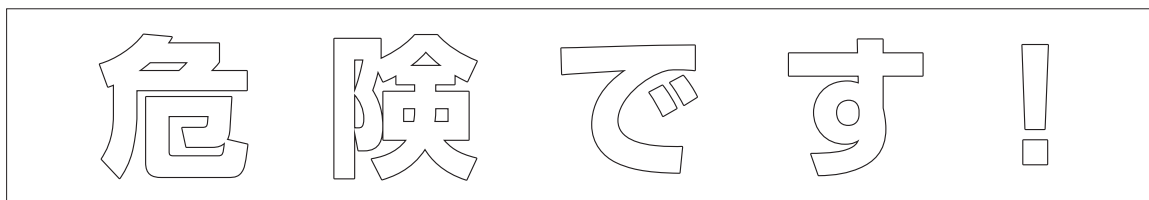
私たちがいつも目にする信号機。どこが、何色になっているでしょうか。



(2) 看板を作しましょう。

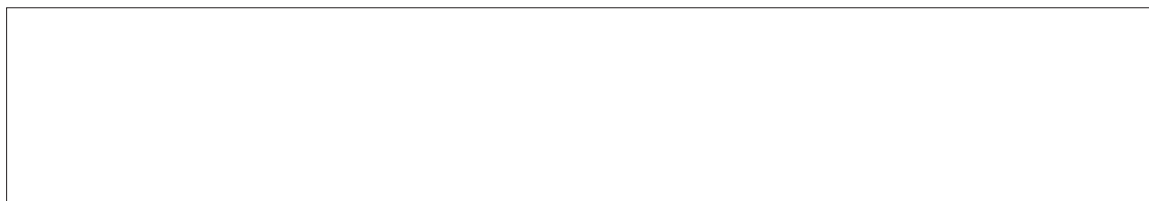
危険箇所に注意を促す看板を作ります。どのような色にすればいいでしょう。

A



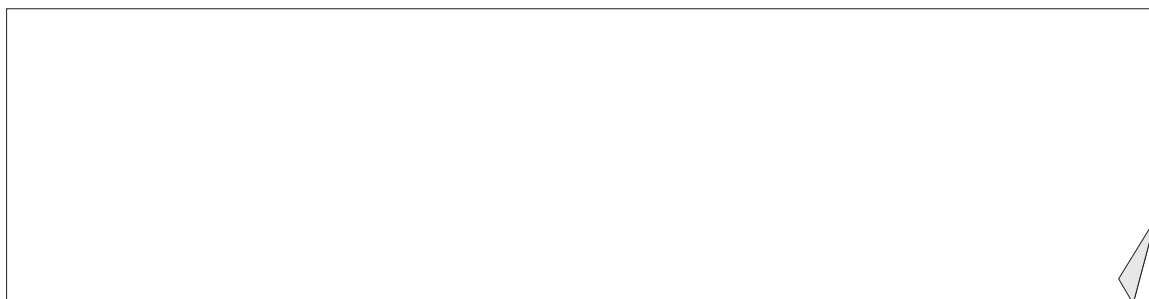
すべての人が分かりやすい看板にするためには、どのようにすればいいでしょう。

B



(3) 表示を作しましょう。

トイレをきれいに使ってもらうための表示です。どのように書きますか。



○ 私たちの町が、みんなにやさしい町になっているか、調べてみましょう。

テーマ「住みよい地域社会」 ～思い込みや偏見について考える～

〔事例38:「人権感覚を培う参加体験型グループ研修」に関連した取組事例〕

1 目 的

- 家族パズルゲームを通して、性別や年齢を理由とする思い込みや偏見に気づき、様々な人権問題を解決する糸口を見つけさせる。
- 偏見が生まれるエピソードについて話し合うことで、大人の役割の重要性を知るとともに、子どもの人権感覚を育てるための実践力を身に付けさせる。

2 対 象 成人

3 所要時間 60分～

4 準 物 ワークシート、筆記用具

5 進め方

(1) パズルに挑戦 (15分～)

- ア ワークシート (P.34) のパズルをする。(切り取らずに考えさせる)
- イ グループ (3～4名) をつくり、司会者を決める。
- ウ*¹グループで司会者を中心にどの絵をあてはめたか話し合う。
- エ 話し合うなかで思ったことをワークシートに書く。
- オ 思ったことを全体で紹介し合う。
- カ*²ファシリテータ (全体の進行役) の話を聞く。

(2) エピソード (35分～)

- ア エピソードを聞く。
- イ ワークシートの「視点①」について自分の考えを書く。
- ウ グループで司会者を中心に話し合う。
- エ グループの一人がグループの主な意見を全体で紹介する。
- オ ワークシートの「視点②」について自分の考えを書く。
- カ グループで司会者を中心に話し合う。
- キ グループの一人がグループの主な意見を全体で紹介する。
- ク*³ファシリテータの話を聞く。

(3) 振り返り (10分)

この学習を通して、各人が気付いたことを発表し合い、意見交換する。

6 留 意 点

〔パズルに挑戦〕

- * 1 正解は一つではなく、二つの絵のどちらでもいいことを押さえ、なぜその絵を入れたのかを話し合わせる中で、思い込みや偏見に気付かせる。
- * 2 思い込みや偏見が様々な人権問題を温存させる原因の一つになっていることに気付かせる。

〔エピソード〕

- * 3 大人の言動が、子どもの人権感覚の育成に影響を与えることを伝え、大人の果たす役割の重要性を認識させる。

ファシリテータ

参加体験型学習を進行する人のことをいいます。「促進者」という意味があり、学習者の学びを促進するという役割を果たします。

7 思い込みと偏見の解説

「思い込み」や「偏見」という落とし穴

パズルをするうえで、次のような「思い込み」や「偏見」はありませんでしたか？

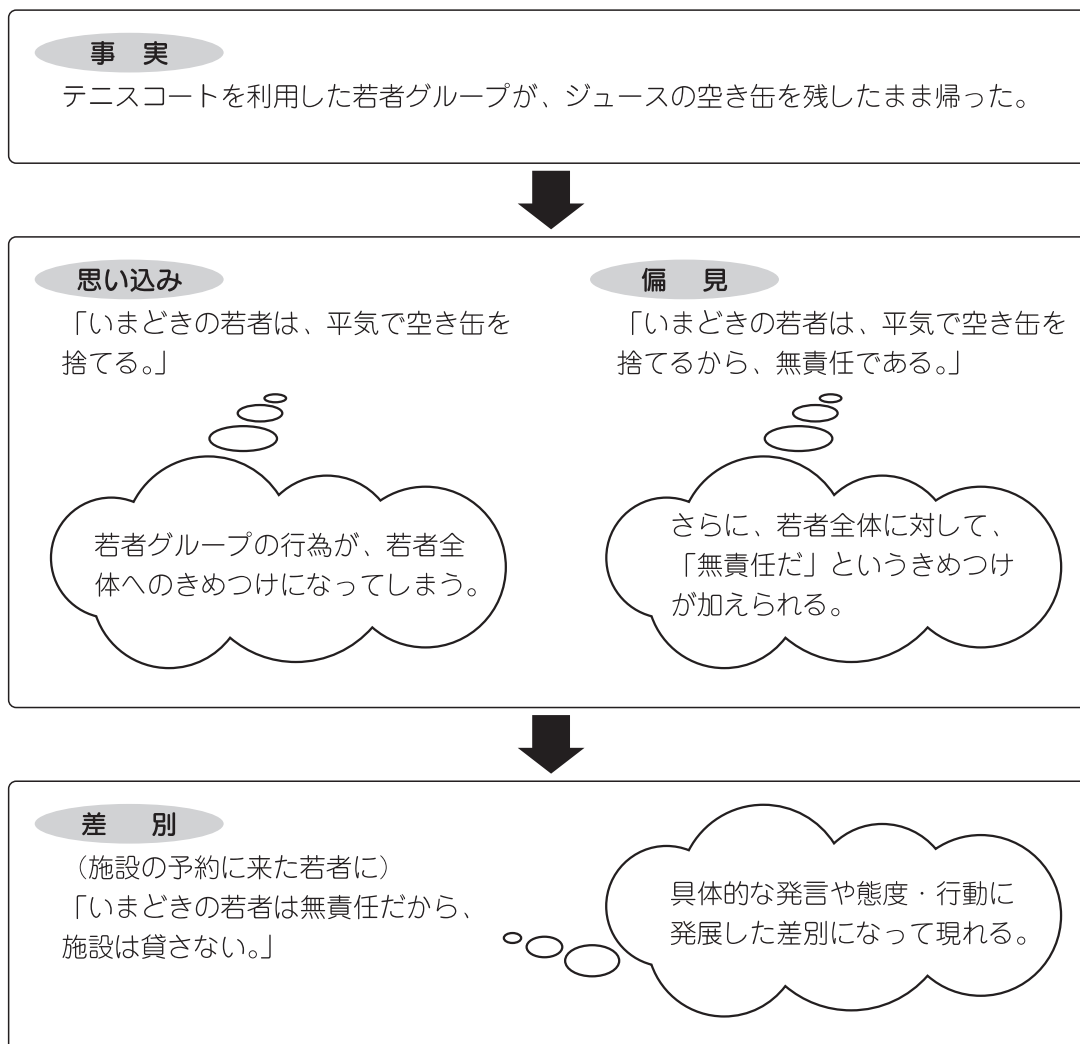
☆ 仕事をするのは、男性のつとめだ。

☆ 家事は女性がすべきことだ。

☆ サッカーやテニスは若者のスポーツだ。

☆ 子どもは遊ぶものだ。

など



8 ワークシート

パズルに挑戦しよう

下の絵のA～Dの空欄には、右のア～クの中のどれかが当てはまるように作られています。

じっくり右の絵と下の絵を見比べて、一番当てはまると思う絵を見つけて記入してください。

ア



イ



ウ



カ



エ



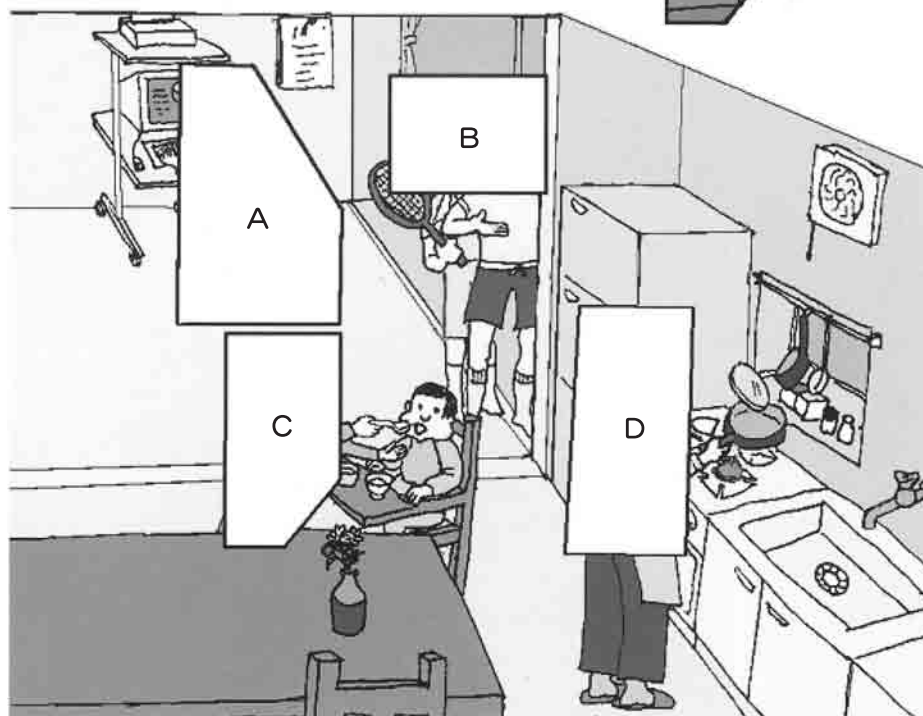
オ



キ



ク



視 点

○ 選んだ絵についてグループで話し合い、思ったことを書きましょう。

エピソード

Aさんは脳性小児まひのため、四肢の運動機能が弱く、手足が自己の意図に従わず不自然な動きをするなどの症状があります。Aさんは、電動車椅子を使って散歩をするのが楽しみの一つです。

そこへ通りかかった親子らしき3人。男の子がAさんを見て、
「へんな人がおる。」
と、ささやきました。女の子もそれに応えて、
「ほんとやねえ。」
と、言いました。

Aさんは、腹立たしい思いで子どもたちを見ました。

するとその子どもたちの母親らしき女性が、
「だめじゃない。そんなこと言ったら、
おじちゃんにおこられるよ！」
と言って、子どもたちを引っ張るようにして
向こうへ連れて行きました。

Aさんは、無言のまま車椅子のスティック
を操作して、散歩を続けました。



視 点

- ① 親子の発言について考えてみましょう。また、それを聞いたAさんの気持ちについて考えてみましょう。

- ② あなたが「母親らしき女性」だったら、なんと言いますか。どうしますか。

テーマ「住みよい地域社会」

～問題を避けようとする意識について考えよう～

〔事例38:「人権感覚を培う参加体験型グループ研修」に関連した取組事例〕

1 目 的

- 身近な生活の中にある人権課題に対して問題を避けようとする意識が、差別をすることにつながることを理解させる。
- 同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決するために、差別をなくしていこうとする意欲をもたせる。

2 対 象 成人

3 所要時間 80分

4 準 物 資料【ワークシート1(P.37)】、【ワークシート2(P.38)】

5 進め方

※ あらかじめ、4～5人の班をつくっておく。

【ワークシート1】の活用 (30分)

(1) グループ討議 (20分)

- ア 事例1から3について、問題点を考える。(個人)
- イ 司会者を中心に、問題点について話し合う。

(2) 全体討議 (10分)

- ア グループの代表者が問題点を発表する。
- イ 三つの事例に共通したことをまとめる。

【ワークシート2】の活用 (45分)

(1) グループ討議 (30分)

司会者を中心に、妻はどうすべきかを話し合う。

(2) 全体討議 (15分)

- ア グループの代表者が発表する。
- イ 発表された内容をまとめる。

振 り 返 り (5分)

本時の活動を振り返っての感想を書く。

6 留 意 点

- 三つの事例に共通していることは、「問題を避けようとする意識」であることを、みんなで確認する。
- 問題を避けようとする意識は、今ある差別に対して見て見ぬふりをすること、特定の人を排除することになり、差別につながることを説明する。
- 事例3については、妻の思いを話し合ったり、他のグループの発表を聞いたりすることで、多くの具体的な実践方法を参加者が知ることにより、明るい展望につなげたい。

7 ワークシート

ワークシート1

《事例1》 障害者問題：ある家庭での親子の会話

娘 「私たちの町に知的障害者施設を建設するといううわさがあるらしいよ。」

父 「何か起こったらやっかいだな。こんな住宅地にどうしてわざわざ建設するんだろうね。郊外にでも建設すればいいのになあ。」

《事例2》 外国人問題：ある友人どうしの会話

A 「隣に外国人が引っ越してくるらしいのよ。」

B 「近所でも外国人とのトラブルが多たって聞くし……。あんまり来てほしくないわよねえ。」

《事例3》 同和問題：建て売り住宅の購入を考えているある夫婦の会話

妻 「紹介してもらった住宅は、学校からも近いし、広くていい物件だと思うわ。購入しましょうよ。」

夫 「確かにいい物件だけど、〇〇地区にあるんだぞ。気が進まないな。」

★ それぞれの事例には、どんな問題があるでしょうか。

事例1

事例2

事例3

★ 三つの事例に共通したことはあるでしょうか。

ワークシート2

- ★ もし、あなたが、《事例3》に登場する妻だったら、この後、どんな話をしますか？
具体的な会話でもいいですし、話の内容でもかまいません。自分の思いを書いてみましょう。

《事例3》 同和問題：建て売り住宅の購入を考えているある夫婦の会話

妻 「紹介してもらった住宅は、学校からも近いし、広くていい物件だと思うわ。
購入しましょうよ。」

夫 「確かにいい物件だけど、〇〇地区にあるんだぞ。気が進まないな。」

もし、あなたが、妻だったら…

メモ

☆この学習を振り返って

資料作成委員

愛媛県立北条高等学校	教 諭	白石 隆二
愛媛県立松山南高等学校	教 諭	甲斐 哲也
愛媛県立松山盲学校	教 諭	黒田 慎治
東予教育事務所教育指導課	指 導 主 事	木村留里子
〃 社会教育課	社会教育主事	若田 彰
中予教育事務所教育指導課	指 導 主 事	矢野 裕司
〃 社会教育課	社会教育主事	須之内靖彦
南予教育事務所教育指導課	指 導 主 事	好見 賢治
〃 社会教育課	社会教育主事	小池 源規
愛媛県教育委員会人権教育課	課 長	新谷 和志
〃	課 長 補 佐	清水 謙二
〃	社会啓発係長	住野 秀志
〃	学校指導係長	峯本 陽子
〃	担 当 係 長	柿本 久
〃	指 導 主 事	小黒 裕二
〃	指 導 主 事	越智 秀雄
〃	指 導 主 事	森 昭彦
〃	指 導 主 事	上田 正弘
〃	指 導 主 事	高岡 憲二
〃	指 導 主 事	酒井 学
〃	主 事	中藤 未都